

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

9月号

平成26年(2014).8.27



## 田の水を抜く

校長 市川 幸男

40日間に及ぶ夏休みが終わり、楽しい思い出を胸に元気一杯の子ども達が登校してきました。今年の夏休みは、暑い日があったり突然の大雨があったりと異常気象を感じる日が多く続きました。幸いにして関東地方には大きな災害はありませんでしたが、西日本を中心に大きな被害が出たことを紙面をお借りしてお見舞い申し上げます。そんな夏の中、水泳をがんばった、毎日はまっ子に通い、いっぱい遊んだ。あるいは、家庭で勉強に自由研究に頑張った等々。それぞれの状況で頑張り、自信に満ちた子どもたちの顔に、本日、たくさん触れることができました。夏休みに培った力をこれから始まる学校生活の頑張りにつなげてくれること期待しています。

さて、夏休みに入ってまもなくのことですが、子どもたちの植えた稲やさつまいもがどのように育っているのかと思い、花壇巡りをしました。夏の日差しの下、稲は青々とした葉を空に向け真っ直ぐに伸ばしているのですが、一株一株が弱々しく、株間が透けてまばらに生えているように感じました。気になって稲の茎をさわってみると、中が空洞で少し強くつまむと折れてしまいます。



そこで担任と相談し、しばらくの間、田の水を抜いてもらいました。すると、稲が根をしっかりと張り始め、それにつれて一本一本の茎が太くしっかりとしたものになっていきました。同時に株分かれも始まり、強い株となっていきました。

「稲のためを思い、意図的に水を抜く。」この後、稲は穂を出し、たわわに実をつけていきます。そのことを考えると、伸び盛りの若草の時に、稲の根をしっかりと育てていかななくてはいけないのです。水を控えることによって、稲は多くの水分をとるために自分で根を広げて、しっかりと土台を作っていきます。私はその稲の力を見て、学校教育においても同じだなと思いました。

ともすると私たちは、子どもたちのためと思い、あれもこれも、子どもたちが困らないように準備したり、子ども達の欲求に答える援助をしたりしがちです。もちろんそれは、大部分が大切な行為であり、学習の効率や内容を高めていくことにとって必要不可欠なことだと思います。でもいつも敷かれたレールばかりでは、子どもたちの成長にとって問題も抱えているのではないのでしょうか。時には、自分の思いを実現に結びつけるために、子どもたち自身が工夫してレールを敷き、解決に向け努力を重ねていくことも大切だと思います。まさに田の水を抜き、稲が自らの力で、土台となる根を巡らせるように、私たちも、時には子どもたちが努力することで達成できるような負荷と意図的に対面させ、それを乗り越えさせていくことも、大切にしていきたいと思います。その取り組みは学校ばかりでなく、家庭でも同様だと思います。夏休み中の花壇から、そんなことを考え、勉強をさせていただきました。

その後、稲はすくすくと伸び、現在は立派な稲穂をつけ、花が開いているところです。